

平成 21 年度 城東地域総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 08 日

課題	「近所ならスーパーや友人宅へ行けるが交通機関を使ってでは一人だと怖くて不安だ。長らく散策等のお出掛けをしていない。」と親しくなった地域の方、4～5人から聞き、早めの予防活動が必要と感じた。	
対象	担当地域の高齢者で、原則自立歩行が可能な方。 (手押し車、杖等の福祉用具の使用を含む)	
活動目標	・閉じこもりや意欲低下の予防。 ・地域の中に新たな交流の輪を作り広げる。	
活動内容 (具体的取組み)	(年3～4回実施。現在18回目を数える) ・当初は自事業所と関わりのある方4～5名で・近場・短時間でこの会の運営を探る。 ・3回目より交通機関を使って実施。現地下見をしピラを作成し、的を絞って呼びかける。(最大20名までを目標に) ・主に自然のあるところや歴史的建造物があるところを行き先にし、現地で昼食(お弁当を注文したり、現地の飲食店を利用)を摂り、散策して、およそ10時頃より15時頃を目途にした行程である。 ・交流と歩くことが主眼である。散策と食事以外の工夫はないが、6年目を向え継続はまだまだ必要と思われる。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	先ず、参加者だけの活動に移行していく中で新たな地域の方を発掘していくようにしていきたいのだが、思うように行っていないのが現状である。しかし毎回参加する方も多数おられ、「この前、〇〇と・・・へ行ってきたよ」と報告を受けることもあり、この会を離れての新たな交流が芽生え始めていることにこの会の意義を感じている。又、私達職員としか交流がなかった方も、地域の読み聞かせの会や食事会等に参加するようになり周囲の方々へのいい刺激となっている。	
確認者コメント	☒ 地域性 少人数の声から開始された活動が、地域に根付いている。交通機関を利用しているので、行動範囲	
確認日 21 年 10 月 8 日	☒ 継続性 も拡大。この会を離れての交流も芽生えており、	
確認者	☒ 浸透性(拡張性) 意義深い活動になっている。	
城東区地域包括支援センター	☐ 専門性	
	☒ 独自性	



平成 21 年度茨田地域総合相談窓口(フランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 1 日

課題	認知症やADL低下等から在宅生活が厳しくなっている単身高齢者の将来の生活や施設入居について「すぐにでも施設に入りたいが入れるところがない」と困っている相談が一番多く、実態を相談業務の中で把握した。
対象	① 圏域内の単身高齢者、高齢者のみ世帯 ② 圏域外の単身高齢者、高齢者のみ世帯だが、市内での生活希望者
活動目標	地域の皆様が安心して生活して過ごしていただけるように各施設とネットワークを構築や相談窓口としての対応だけでなく、必要に応じその後の生活もフォローしていけるようにサポートする。
活動内容 (具体的取り組み)	① ケアハウス、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、福祉業者のパンフレット、施設の空情報を集めてそれぞれの種別ごとにまとめ、ファイルを作成する。 ② 地域からの緊急時の相談は、空情報を利用し、将来の生活についての相談には、出来る限り時間を取り、納得してもらえるような情報提供とフォローアップを確実に出来る様に相談対応を行っている。 ③ ケアマネジャー等の専門職からの相談にも活用する。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	① 施設のパンフレットを依頼するにあたり、各施設の担当者がわかり、相談員とのネットワークを構築することが出来た。 ② 今回ファイルを作成し、相談・対応するようになったところ福祉施設の相談だけでなく、合わせて医療施設についての相談も増え、現在病院のファイルも作成中である。 ③ フォローアップを行うことで「長いお付き合い」が生まれ、何かあった時には気軽に声をかけていただける関係が築けた。
確認者コメント	☐ 地域性 ☐ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☐ 独自性
確認日 21 年 10 月 19 日	必要な人に必要な情報をすぐに提供でき 身近な相談窓口としてのフランチの認識 が広がる 今後 より効果的に情報発信する工夫や そこから新たに活動の展開がされることを期待 する
確認者 鶴見区地域包括支援センター	

平成21年度 今津地域総合相談窓口(ランチ)課題対応取り組み報告書

報告書作成日:平成21年10月9日

課題	①榎本地区に関しては、今期より、高齢者ネットワーク推進委員が変わり、ご本人が仕事内容の理解がまだ出来ておられず、昨年度に比べ情報があがってこなくなっている。 今津地区に関しては、以前同様、地域ネットワーク委員からの情報はなく、直接の相談のみであり、あがってきた時はすでに重度化しているケースが多い。 両地区の委員にはこちらから報告はしている。 ②関係の構築を図りながら、独自に把握していく必要がある。
対象	①推進委員、ふれあい委員、民生委員、町会長、近隣住民 ②地域住民
活動目標	①各ネットワーク委員に、総合相談窓口の役割を周知して頂く様働きかけ、関係構築を目指す。 ②地域に開かれた、総合相談窓口となるよう周知活動を行なっていく。
活動内容 (具体的な取り組み)	①今津地域ネットワーク委員・ふれあい委員の総会に出席。 各町会のネットワーク委員・ふれあい委員との面識を持つ。 また、各町会の今後の活動状況や問題点等の把握。 当ランチの職員紹介、役割等を説明。 ②・以前より関わりのある、気になる独居の方や高齢者世帯の見守りを継続しながら、新たな情報を得られるよう、話しも聞く。 ・月1回の介護家族の会に参加し、当ランチ職員の顔を知ってもらい、顔の見える関係を築く。また、地域の方々に、介護家族の会への参加も呼びかける。 ・包括支援センターと家族介護支援教室の共催の際にも、当ランチを知ってもらいよう働きかけていく。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①ネットワーク委員から情報があがってくる事はあまりないが、当ランチで把握した方の情報を伝え、見守り等の依頼をし了解を得ている。 引き続き情報提供を行い、関係を構築していく。 ②介護家族の会や、家族介護支援教室への参加を重ね、徐々にではあるが、当ランチも周知されてきている。
確認者コメント 確認日21年10月20日 確認者 鶴見区地域包括支援センター	■地域性 ☐継続性 ☐浸透性(拡張性) ☐専門性 ☐独自性 地域ではケースの見守りを細やかにされている。今後、あらゆる機会にランチの総合相談を周知し、地域ネットワーク委員会と連携をとることで、地域のインフォーマルなサービスが把握でき、よりきめこまやかな支援体制がとれる。また、地域の課題を見つけることもでき、新たな活動の展開を検討することもできる。今後、より効果的な活動展開を期待する。

平成 21 年度昭和地域総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 8 日

課題	担当する、この昭和地域は阿倍野区の中でも特に高齢者人口の高い地域であり、また、高齢世帯、高齢独り暮らしの多い地域でもある。高齢者の方々が安心して地域で暮らしていけるような地域作りが必須である。	
対象	昭和地域で暮らしておられる高齢者、地域活動を行っておられる、ネットワーク委員。	
活動目標	認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような地域作り、「(認知症)とは、どのような病気なのか?症状があるのか?」認知症についての理解を深める。	
活動内容 (具体的取組み)	8月6日に、長池連合会館にて定例のネットワーク委員連絡会が開催された。その中で、阿倍野区地域包括支援センターと協働にて、「(認知症)とは、どのような病気なのか?どのような症状があるのか?」認知症についての理解を深める意味で、寸劇を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	終了後、ネットワーク委員さんからアンケートをとり、「資料を渡され、説明を受ける形より、劇を目でみたやり方の方が、とてもわかりやすく理解できた。」という結果が得られた。	
確認者コメント	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☒ 独自性	
確認日	21 年 10 月 10 日	
確認者 阿倍野区地域包括支援センター	地域の中でも一番地域に身近なネットワーク委員に 向け、認知症の理解を深め、ブランチの存在を 周知し、ブランチとネットワーク委員の役割を同じ場で共有 認識できた意義は大きい。今後互いの連携がさらに 良い機会と取りましょ。	

平成 21 年度 阿倍野地域 総合相談窓口(branch)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 6 日

課題	地域からの相談を受けた際に、相談を受けた所のみが全てを請け負うのではなく、各関係機関と連携をする事で迅速な支援を展開出来る様にする。 気兼ねなく、相談を出来る場として啓発を行う。	
対象	地域の高齢者	
活動目標	支援を行う際、支援する側が孤立する事ない様常に関係機関と情報を共有し共に支援を出来る様にする為のネットワークの構築	
活動内容 (具体的取り組み)	① 在宅介護支援センターでの活動を広げる為に専属員を雇用 ② 地域からの相談で、介護拒否と金銭搾取(疑)がある人への対応する際、福祉事務所、地域包括、地域ネットワークに相談をし、何かあった際動いていただける様要請をして情報の共有化を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	各機関から理解を得られ、支援に関して共に動いていただける様準備を行う事が出来た。	
確認者コメント	☐ 地域性 ☐ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☐ 独自性	
確認日 21 年 10 月 14 日	関係機関との連携を意識的に行って 事は、今後の地域でのネットワーク作りにおいて 必要である。具体的支援検討については地域 4人協議を有効に活用していく。	
確認者 阿倍野地域包括支援センター		

宅介護
センター

平成 21 年度 松虫地域 総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 8 日

課題	認知症高齢者や虐待ケースが増えている中、総合相談窓口の役割が十分に周知されていない現状に対し、困難なケースに陥る前に各関係機関が協働してネットワークを作り、迅速に対応ができるシステム作りの強化が必要。	
対象	地域の高齢者および家族。	
活動目標	・相談ケースへ迅速に対応できるようネットワークの構築を目指す。 ・地域の住民参加に総合相談窓口の周知ができる。	
活動内容 (具体的取り組み)	①平成21年7月26日(日) ブランチ・地域包括支援センター・区の保健福祉センター協働で、丸山地域の高齢者・女性部長・連合の会員の方対象に講演会を実施。 ②阿倍野区総合相談窓口のパンフレットをセンターの窓口に設置し、周知を図る。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・講演会に参加された地域の役員の方々からの相談が増えた。 (地域住民や、各団体の役員の方々と、顔の見える関係作りができ、気軽に相談が出来るようになったとのこと) ・相談のケースの利用者に対し、各専門機関だけではなく、地域住民の方と協力して継続的な支援が出来るようになった。 (特に認知症高齢者の支援 等)	
確認者コメント	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☒ 独自性	
確認日 21 年 10 月 10 日	今年度は認知症をテーマに「あまのり」をテーマに講演会を開催し、多くの参加者同士の交流が深まり、特に試食会も合わせて実施されたことにより、顔の見えるネットワーク作りを意図的に進め、成果は顕著である。	
確認者 阿倍野区 地域包括支援センター		

平成 21 年度 文の里 地域総合相談窓口(ﾌﾗﾝﾁ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 10 日

課題	地域住民に認知症を理解してもらい、とりわけ認知症と患っている人の安心に地域をほむこととする。
対象	常盤、高松地区の住民。
活動目標	認知症について、わかりやすく資料等・準備し、専門の人に講演していただく。
活動内容 (具体的取り組み)	3回にわたり、「認知症」とメインテーマに、場所を変えて、講演会を実施。 その後、個人的な相談にも応じ、必要の場合「専門機関」へつなぐしていく。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	毎年 認知症をテーマに講演を重ねており、ようやく地域の人にも周知されるようになった。 会場にはあふれるほどの人の集まり、関心の高さを知られた。
確認者コメント	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☒ 独自性
確認日 21 年 10 月 14 日	毎年 継続しての認知症の講演会から地域の
確認者 阿蘇野地域包括支援センター	中々定着してきませんでした。ネットワーク委員との連携 から、さらに今年は地域外へも刺激をもち、各地での講演会開催への起動力にもつながりました。

平成 21 年度 三稜地域 総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 9 月 28 日

課題	①地域住民との関係づくり（実態把握） ②地域に出向いてネットワークを作っていく。
対象	三稜中学校・南住吉小学校・南住吉大空小学校校区地域住民（高齢者）
活動目標	① 高齢者自らが生活機能の向上を積極的に図れるよう集まる場、 機会の提供を行う。 ② 地域住民の社会交流と健康維持を支援する。
活動内容 (具体的取り組み)	① 南住吉社会協議会主催によるふれあい喫茶 平成 15 年 1 月～毎月第 4 月曜日 13:00～15:30 ②ウェルネスあびこ介護予防〈健康〉教室 平成 18 年 4 月～毎月第 4 月曜日 14:00～血压測定 14:30～介護予防〈健康〉教室 15:30 まで ※健康体操・音楽療法
成果 (根拠となる資料等が あれば添付すること)	①ふれあい喫茶についてはつどいの場として開催中。 ②介護予防〈健康〉教室においては南住吉連合町会・南住吉地区ネットワー ク委員会と連携をとり、健康体操・音楽療法を行うことで運動器の機能向上、 生活機能の低下を防げるよう月 1 度開催しており、看護師による血压測定で はご自身の体調や普段の血压を知る事で健康状態により関心を持っていた だけている。
確認者コメント	■ 地域性 地域内の高齢者の健康増進のため、連合町会、ネットワーク委員 ■ 継続性 会、ランチが連携を図りながら介護予防教室を継続的に開催し ■ 浸透性 ている。多くの地域住民の参加が定着することで、地域における ■ 専門性 介護予防に対する理解普及と自主的な啓発活動に広がりを見せて ☐ 独自性 きている。
確認日 21 年 10 月 1 日	
確認者	
住吉区地域包括支援センター	

平成 21 年度 住吉地域 総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 9 月 30 日

課題	地域役員に対してブランチの認識にムラがある。地域性としてよそはよそ、うちのうちと言った感があり、地域の団結力に欠ける部分がある。
対象	地域役員
活動目標	地域役員が集まる場へ顔を出し、信頼関係を作る。 地域役員と協働で動き、一つのことを成し遂げる。
活動内容 (具体的取り組み)	今まで地区社協はほとんど活動せず、町会・民生・ネットワーク・女性部など、単独行動に近い状態であったが、この度、地区社協を見直し、各役員に地区社協の役員も兼ねて頂き、我々ブランチも地区社協の構成員となった。 住吉第二地域のブランチとともに、地区社協の総務部として、構成員となり、地域の集まる場所への顔出しが増えた。 また、近く社協の広報誌を発行する予定で、こちらの作成は取材から原稿まで全面的に当ブランチと住吉第二地域ブランチが行っており、回覧板を通し、全町会員の目に触れることになる。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	取材というきっかけで、今まであまりなじみの無かった、子育てサロンやPTAなどにも顔出しするようになり、地域の総合相談窓口としてのブランチの存在を少しでも周知できたように思う。 しかし、単独行動の時期があまりにも長すぎた為、社協の活動に対して風当たりが強いのも事実である。 今後も地域社協の構成員として地域に入り込むことで、なじみの相談窓口としての役割も浸透していけばと思う。
確認者コメント	■ 地域性 大規模地域の為、各種団体間の連携、地域活動が停滞している
確認 21 年 10 月 10 日	■ 継続性 ことを課題とし、ブランチが地域活動を活性化させる媒介とし
確認者	□ 浸透性 て地域社協の事務局を担っている。他のブランチにはない先駆
住吉区地域包括支援センター	■ 専門性 的な取り組みを継続していくことで地域住民に身近な総合相談
	■ 独自性 窓口が周知でき、地域活動の一躍を担っていくことが大いに期待できる。

平成 21 年度 住吉第二地域 総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 3 日

課題	・ 地域との連携、協働が十分になされていない ・ 地域の実態把握が十分になされていない ・ ブランチの周知が十分でない
対象	・ 住吉地域住民
活動目標	・ 地域との連携・協働体制の整備・強化 ・ 地域との連携強化により実態把握に努める ・ ブランチの周知を行う
活動内容 (具体的取り組み)	・ 住吉地区社会福祉協議会の総務部会（事務局）を住吉地域ブランチが担う。（2009年7月25日 地区社区協会総会にて承認） ・ 主幹実務は、①会則・規程等の起案、改定 ②事務局、相談窓口の設置 ③広報活動（広報誌の発行。構成団体の活動紹介など） ④調査研究 ⑤その他 今年度に関しては、②・③を目標とする。現在、「地区社協だより創刊号」の発行に向けて、構成団体への挨拶、活動紹介のための取材、総会の報告作成、情報収集など準備を行っている。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・ 広報誌作成に伴う、各地域団体への取材を行うことで地域活動家、地域住民との関わりをもつことができた。 ・ 始動したばかりであり、まだ具体的な成果は出ていないが、今後の地域との連携強化は期待できる。 *添付資料* 会則／広報誌原案（作成中につき未完成分）
確認者コメント	■ 地域性 大規模地域のため各種団体間の連携、地域活動が停滞している ■ 継続性 ことを課題とし、ブランチが地域活動を活性化させる媒介とし □ 浸透性 て地域社協の事務局を担っている。他のブランチにはない先駆 ■ 専門性 的な取り組みを継続していくことで地域住民に身近な総合相談 ■ 独自性 窓口を周知でき、地域活動の一躍を担っていくことが大いに期待できる。
確認日 21 年 10 月 10 日	
確認者 人形屋 地域包括支援センター	